

直木賞150回記念

～「平成の落選王はキミだ!？」解説～

受賞作あれば落選作あり、平成元年の第101回から150回までの間に、直木賞にノミネートされた作品は296点に上ります。平成以降に、直木賞にノミネートされた作家は総勢146名、そのうち賞に輝いたのは68名だけです。

しかし、惜しくも受賞を逃した作品も、いずれも粒ぞろいの面白い小説がそろっています。直木賞150回を機に、平成以降のノミネート作品を集めてみました。

平成以降に最も多くノミネートされた作家は、宇江佐真理さん、東郷隆さんで6回候補になっています。それに伊坂幸太郎さん、恩田陸さん等の5回が続きます。

(歴代では、古川薫さんの落選9回(10回目で受賞)という記録があります。)

落選回数が多いということは、裏返せばそれだけ多くの優れた作品を書き続けているということでもあります。ノミネート回数に心から敬意を払いたいと思います。

名古屋市富田図書館

「直木賞」についての簡単な解説

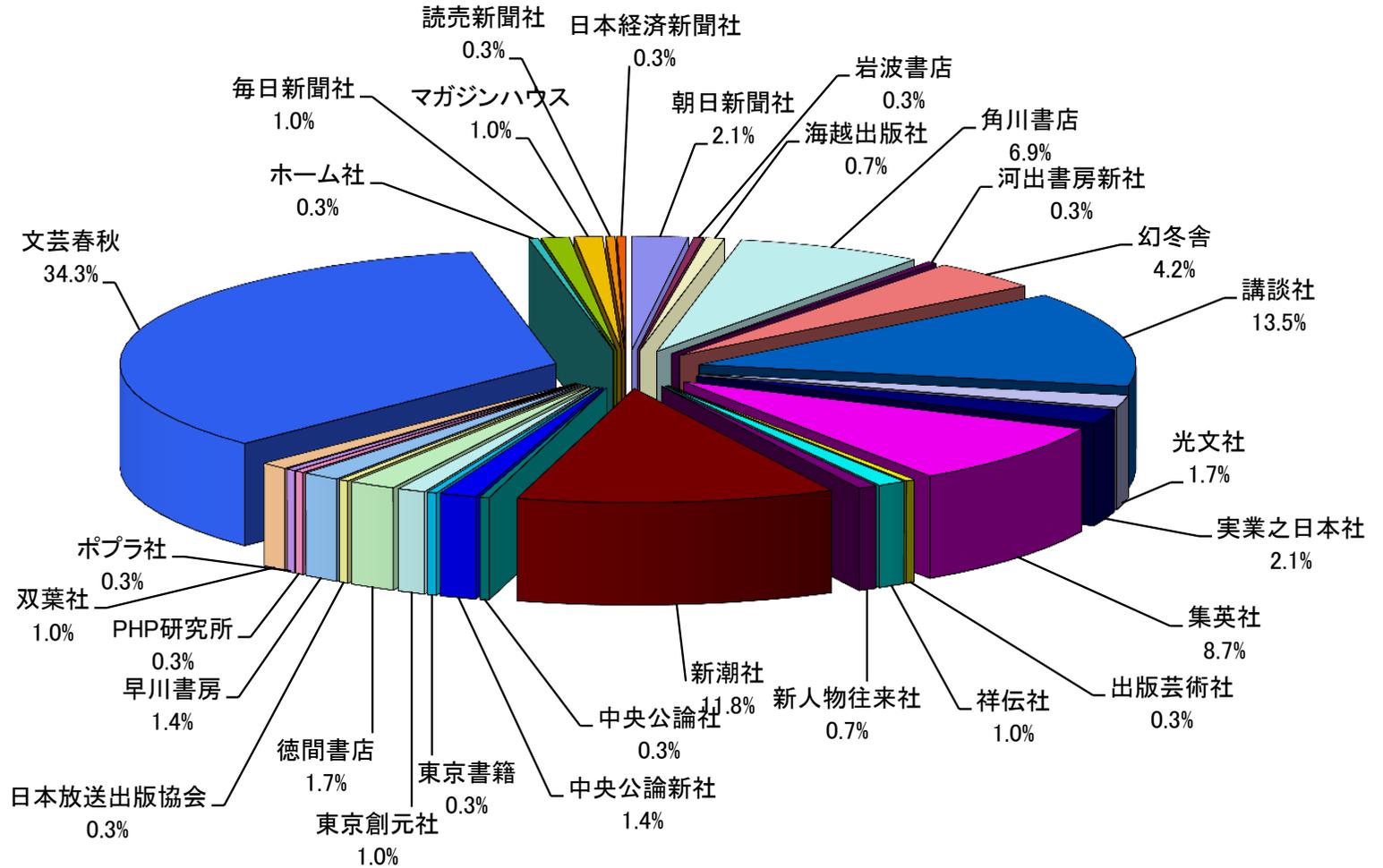
「直木賞」は「芥川賞」とともに、昭和 10 年(1935)に設けられました。発案者は作家で文芸春秋の社主だった菊池寛です。『文芸春秋』昭和 35 年 1 月号に両賞の制定宣言文が掲載され、この年の 8 月 10 日に第 1 回の結果が発表されました。記念すべき第 1 回受賞者は川口松太郎氏でした。

現在は、上半期（1～6月）・下半期（7～12月）の発表作品を対象に年 2 回、7 月と 1 月に選考会が開かれ受賞作が決定します。

敗戦後の中断期間を経て今日まで約 80 年間、時代の様々な変化を映しながら続いてきました。149 回までの受賞作家は 177 名、今回で 150 回を迎えます。芥川賞とともに、受賞がニュースになる文学賞はこれだけともいわれる、日本で最も有名な文学賞です。

直木賞ノミネート作品出版社別比率(平成以降)

- 朝日新聞社
- 岩波書店
- 海越出版社
- 角川書店
- 河出書房新社
- 幻冬舎
- 講談社
- 光文社
- 実業之日本社
- 集英社
- 出版芸術社
- 祥伝社
- 新人物往来社
- 新潮社
- 中央公論社
- 中央公論新社
- 東京書籍
- 東京創元社
- 徳間書店
- 日本放送出版協会
- 早川書房
- PHP研究所
- ポプラ社
- 双葉社
- 文芸春秋
- ホーム社
- 毎日新聞社
- マガジンハウス
- 読売新聞社
- 日本経済新聞社



直木賞受賞作出版社別比率(平成以後)

